

認知症初期集中支援推進事業について

(参考) 認知症初期集中支援チームについて

【目的】

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することを目的とする。

【認知症初期集中支援チームとは】

複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的（おおむね6ヶ月）に行い、自立生活のサポートを行うチームをいう。

配置場所
 地域包括支援センター等
 (診療所、病院
 認知症疾患医療センター
 市町村の本庁)

認知症初期集中支援チームのメンバー



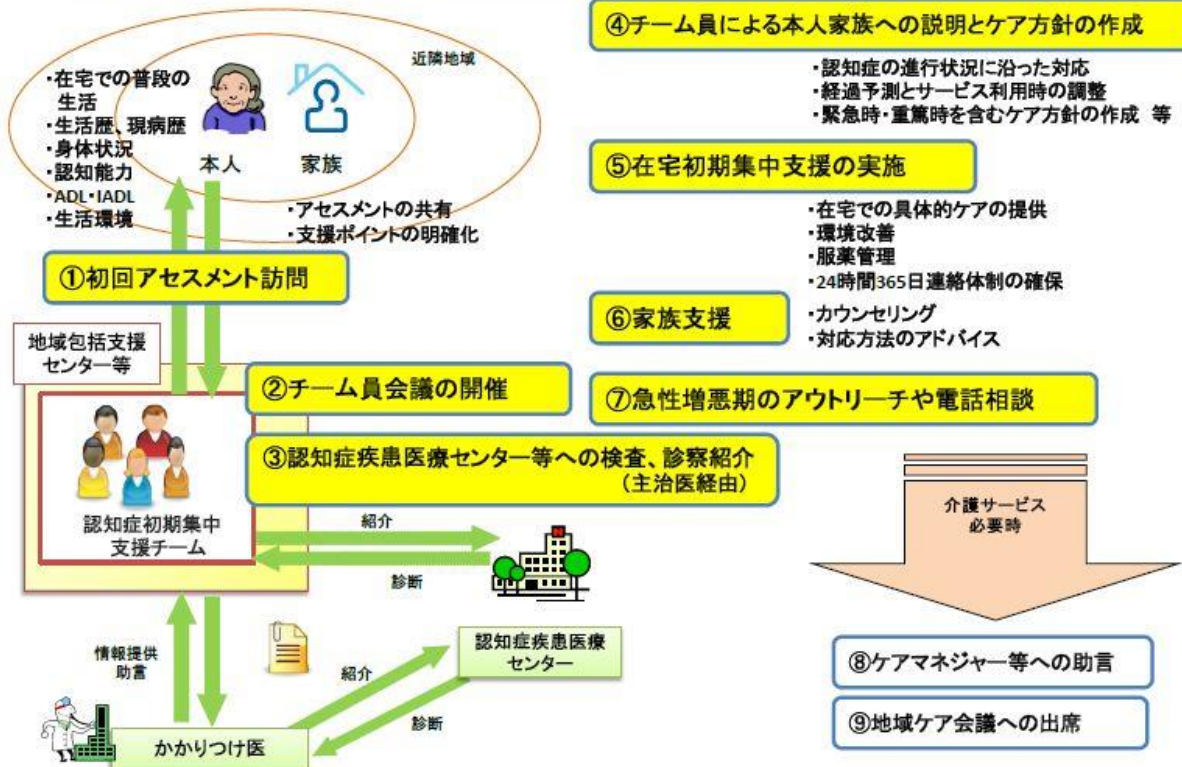
【対象者】

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のいずれかの基準に該当する人とする。

- ◆医療サービス、介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する人
 - (ア) 認知症疾患の臨床診断を受けていない人
 - (イ) 継続的な医療サービスを受けていない人
 - (ウ) 適切な介護保険サービスに結び付いていない人 (エ) 診断されたが介護サービスが中断している人

- ◆医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している

認知症初期集中支援チームの概念図

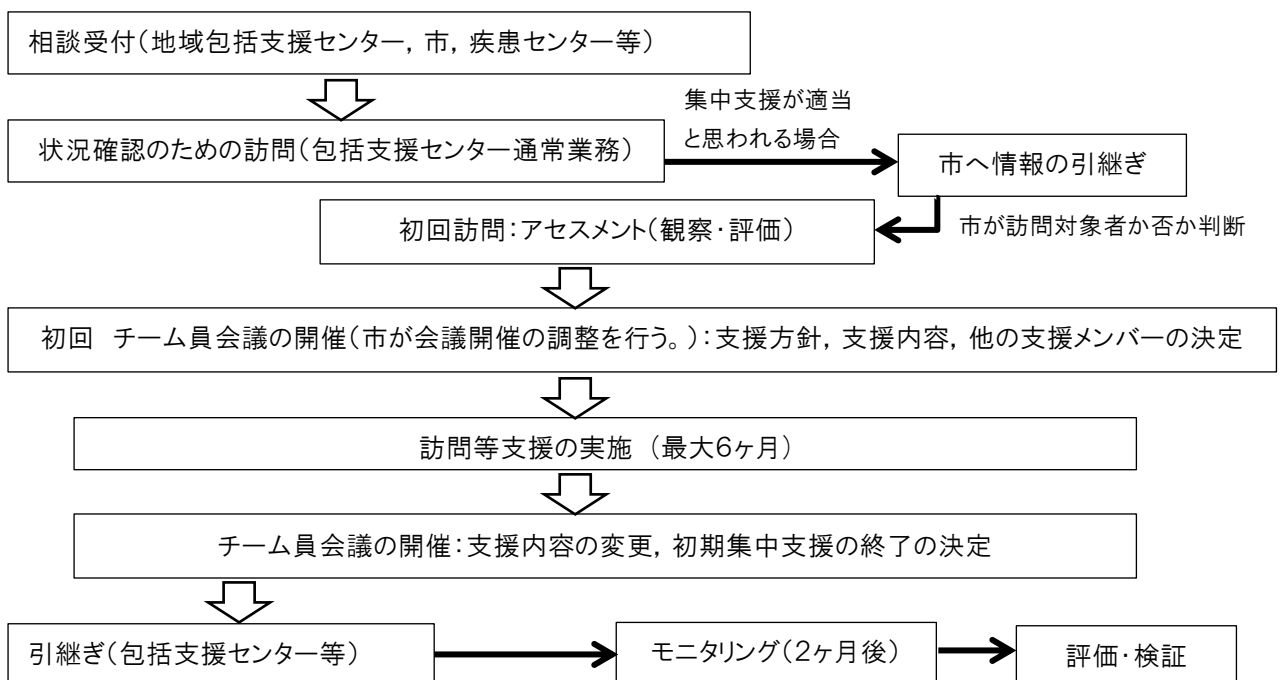


函館市認知症初期集中支援チーム体制（案）

- 1 設置場所 函館市
- 2 チーム数 固定数とせず，ケースに応じたフレキシブルなチームにより対応する。
- 3 チーム員会議 月1回程度を想定
 <参加者> ●専門医 認知症サポート医 1名以上
 ●専門職（以下のとおり）
 - ・地域包括支援センター 1名以上
 - ・認知症疾患医療センター 1名以上
 - ・市 1名以上
 <開催場所> 随時決定する。（市本庁舎，疾患センター等）
- 4 訪問活動 随時
 - 初回訪問は，専門職の医療系，介護系から各1名以上を基本とする。
 - 必要に応じ，専門医が同行する場合もある。
- 5 チーム員構成

地域包括支援センター			認知症疾患医療センター		市
地区	名称	専門職	担当 (原則)	専門医	専門職
西部	あさひ	専門職 (各センター1名以上) 医療系，介護系 保健師 社会福祉士， 主任介護専門員等	富田病院	専門医： 認知症サポート医 亀田北病院 渡辺病院 （富田病院） 専門職（各センター1名以上）： 医療系，介護系 精神保健福祉士， 作業療法士， 看護師等	保健師 （地域支援推進員） 訪問活動，チーム員 会議，チーム編成等 のコーディネートを行う。
中央部	こん中央 ときとう				
東中部	ゆのかわ				
	たかおか				
北東部	西堀				
	亀田 神山				
北部	よるこび				
東部	社協・プラチカやべ	渡辺病院			

6 フローチャート



<認知症初期集中支援チームの業務の流れ>

